

# ELISA関連試薬

## TMB発色用溶液

### 【特長】

1. 1液性と2液性から選択可能
2. 既存品より安価
3. 高い反応直線性
4. 高い保存安定性



### 【製品概要】

TMBはHRP活性を測定する際の発色基質として広く利用されています。本製品はTMBを発色基質として安価に簡単に利用できるように溶液にしたものです。2つの製品がありますが、何れも広く用いられている市販品と同等のシグナル強度と直線性を示します。

- 【製品構成】 TMB溶液(1液型): 250mL  
 TMB溶液(2液型): A液 250mL、B液 250mL (計 500mL)

## ペプチド抗原固相化キット

### 【特長】

1. 特殊プレートするより高い固相化量を実現
2. 通常ELISAプレートを利用できるので経済的
3. 最短90分で固相化可能
4. 固相化バッファー付きなので固相化も簡単



### 【原理とご注意】

本キットでは固相化し難いペプチドをタンパク質とコンジュゲートさせ、そのコンジュゲートを通常のELISAプレートに固相化します。タンパク質としてはBSAを利用していますので、BSAに反応する測定系では利用できません。

### 【製品構成】

固相化タンパク質溶液、反応液、反応ストップ剤、固相化バッファー、PBS  
 (1キット当り、3回分の固相化用試薬が付いています。1回で約250 $\mu$ gのペプチド処理が可能ですので、ELISAプレートの1ウェルに5 $\mu$ g/mLで固相化する場合、プレート5枚分に相当します)

### 【製品価格】

製品番号	製品名	内容量	希望小売価格
BCL-TMB-01	TMB溶液(1液型)	250mL	¥12,000
BCL-TMB-21	TMB溶液(2液型)	各 250mL	¥16,000
BCL-PIK-01	ペプチド抗原固相化キット	1キット(3回分)	¥20,000

### 【製造・販売元】

株式会社ビークル  
 〒607-8465 京都市山科区上花山坂尻25-10  
 TEL/FAX: 075-582-8505  
 website: [www.beacle.com](http://www.beacle.com)  
 E-mail : [information@beacle.com](mailto:information@beacle.com)

### 【ご注文先】

# TMB溶液の製品説明

## 【反応直線性と既存製品との比較】

HRP酵素を横軸に縦軸に450nmの吸光度を取り、直線性を確認した。1液型品も2液型品も良好な直線性を示した。対照として利用した市販品と比較して同等の反応を示すことが分かる。

## 【使用方法の概略】

1液組成:

ボトルから必要量を採り、96ウェルプレートの場合、1ウェル当たり100  $\mu$  Lをそのまま添加下さい。発色反応後、2M硫酸でストップし、発色を450nmで測定します。

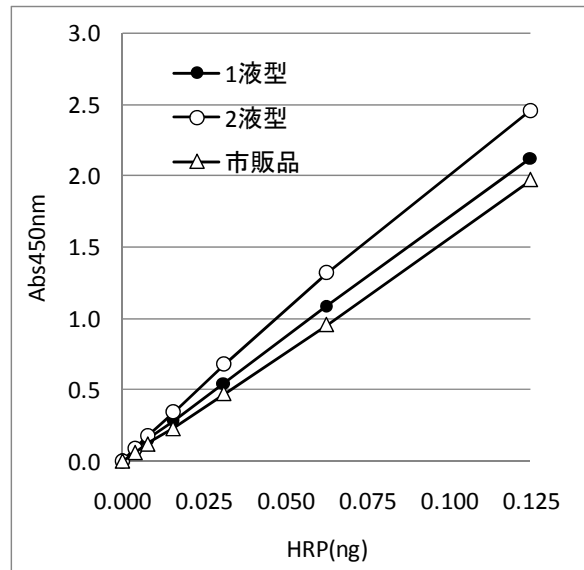
2液組成:

各ボトルから必要量の半量を採り、両者を混合し、96ウェルプレートの場合、1ウェル当たり混合液を100  $\mu$  Lを添加下さい。発色反応後、2M硫酸でストップし、発色を450nmで測定します。

## 【保存安定性】

1液組成: 1年間

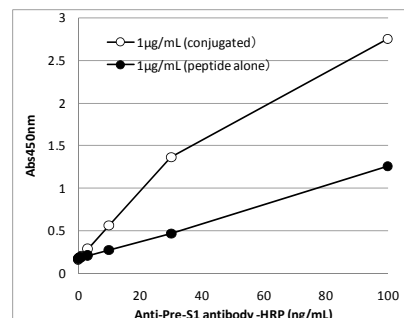
2液組成: 1年間



# ペプチド抗原固相化キットの製品説明

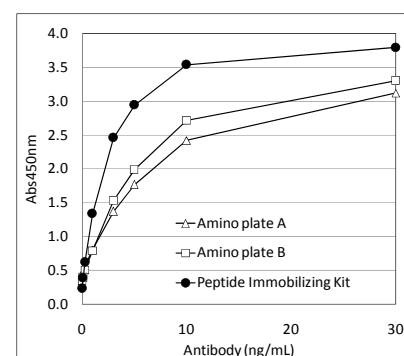
## 【ペプチド抗原固相化の実施例】

実験方法: Pre-S1ペプチドを市販の高結合性ELISAプレートに固相化し、ペプチドに対するHRP標識抗体で検出した。Pre-S1ペプチドはそのままでも一定量の固相化が可能であったが、本キットを用いて固相化すると固相化が促進され、約3倍の反応が観察された。



## 【ペプチド抗原固相化の実施例】

実験方法: Pre-S2ペプチドを本キットを用いて中結合性ELISAプレートに固相化、又は、アミノ基結合型の2種の市販プレートを用いて固相化した。これらのプレートを用いてPre-S2ペプチドに対するHRP標識抗体で検出し、比較した。本キットを用いて固相化するとよく利用される2種のアミノプレートより高い反応が見られ、固相化量が本キットを利用した方が高いことが分かる。



## 【使用方法の概略】

ペプチドを一定量(250  $\mu$  gが最大量の目安です)を250  $\mu$  LのPBSへ溶解する。ここへ固相化用タンパク質溶液を等量(注)混合する。ここに、コンジュゲート反応液を50  $\mu$  L添加し、よく混合する。本操作を5回繰り返す、合計、250  $\mu$  Lの反応液を加えた後、60分間4°Cで放置する。反応ストップ剤(粉末)の1回分全量を混合反応液に加え、反応をストップする。固相化バッファーで固相化に必要とするペプチド濃度に希釈し、プレートを固相化する。固相化時間は30分以上3時間以内として下さい。

注: 混合比は等量が基本ですが、最適な濃度はペプチドにより異なります。最適濃度は自身でご確認ください。

## 【保存安定性】

1年間